

## 国際関係論 I

2 units (selection) 3rd-year(1st semester)

Kazuhiko Aiba · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

**Target)** 米ソがにらみ合った冷戦中は、明日にも第三次世界大戦が起き、核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった。89年、米ソ首脳が握手をかわし、幸運にも人類は冷戦を脱した。ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが、まもなく幻滅が広がった。噴出する内戦・民族紛争と、拡大する貧富の格差。新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると、9/11テロの衝撃が世界を揺るがした。そして今、アフガン戦争、イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され、国際社会はいったい、どこに行こうとしているのか。この授業では、こうした変動する現代国際社会の現実を知り、そこで生起する諸問題について、特に平和と戦争に関係する観点を中心に、考察する。

**Outline)** 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ。授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも、筆者のフィールドワーク(紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など)や、新聞記者の経験などに基づく”教科書に載っていない”解説も試みたい。また、適宜、時事的な国際ニュースも取り上げ、ビデオやスライドも使う。国際関係論 I では、主に総論的、理論的、概念的な問題を扱う。

**Keyword)** war, war

**Notice)** 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており、一方だけ受講することもできるが、I で総論的、基礎的な解説を行い、II ではそれを元に各論的、発展的な内容になる面もあるので、連続して受講する方が望ましい。

**Goal)** 国際社会の性質、特徴を理解すること。平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。国際政治と国際法の基本について、とらえ方、原理、原則を把握すること。「冷静な現実主義」と、「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと。

**Schedule)**

1. 国際社会の成り立ちと特徴 (1)
2. 国際社会の成り立ちと特徴 (2)
3. 国際法の基本 (1)
4. 国際法の基本 (2)
5. 国際社会を見る理論的枠組 (1)
6. 国際社会を見る理論的枠組 (2)
7. 国際安全保障の諸理論 (1)
8. 国際安全保障の諸理論 (2)
9. 民族とアイデンティティ (1)

10. 民族とアイデンティティ (2)

11. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(1)

12. 民族紛争(ルワンダ, 旧ユーゴ, コソボなど)(2)

13. 戦争の違法化 (1)

14. 戦争の違法化 (2)

15. 補足と総括

16. 試験

**Evaluation Criteria)** 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらいますが、それらで出欠の確認も行う。試験は論述式(短答式と長文論述併用)の期末試験を行う。持ち込み不可。成績は試験の結果に、出席状況、授業中の質疑応答などを加味して判断する。

**Re-evaluation)** 行わない。ただし、僅差で合格点に達しない受講者には、一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える。

**Textbook)** 教科書は特に指定せず、授業中に配布するレジюме、資料に沿って解説する。参考書などは適宜、紹介する。

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346>

**Contact)**

⇒ Aiba (+81-88-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 木曜日13:30~ 14:30, 金曜日14:30~ 16:00. この時間以外でも在室時は随時可.)